

第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会
第 4 回議事録（概要版）

開催日時：2019 年 5 月 17 日（金）14：00～15：30

場所：日本学術会議 会議室（5-B）

出席者：小松、永瀬、寶金、正木、西村（議事録）

欠席：岩崎、井上、川口（順不同、敬称略）

資料

①第 24 期日本学術会議 少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会 第 3 回議事録（概要版）

②第 24 期日本学術会議 少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会 第 3 回議事録（詳細版）

③「日本の展望 2020（仮称）」の総論試案に対するご意見募集 回答フォーマット

④「日本の展望 2020（仮称）」の総論試案

⑤2020 年マスタープラン

⑥図 ケア・イノベーションの研究拠点とアウトカム

⑦提言案 小松私案

【議題】

（1）委員会の報告

小松委員長より、総会の際に健康・生活科学委員会が開催され、新たな議題として、スポーツ科学分科会が複数の委員会との共催によって、来年度のオリンピック・パラリンピックに関するシンポジウムを予定していることが報告された。

（2）分科会の本年度の予定

小松委員長より、本年度の分科会の開催は財政上 1 回のみであることが報告された。年度後半の会議等の開催は予算の状況に応じて検討する。

「ケアサイエンス」の学術上の特徴などは、『学術の動向』に示したが、今後は『提言』において明確に方向性を出した方がよいと考える。提言の執筆にあたっては、参加いただきたい執筆者の検討をしたい。

（3）「マスタープラン」（2020）の提出について

小松委員長より、健康・生活科学委員会から横断的なテーマとしてマスタープランを出すことが計画され、2018 年 3 月 28 日に資料⑤のプランを提出したことが報告された。プラ

ンの方向性として、社会において必要性の高い内容を検討し、研究計画課題を「Society5.0の核となるケア・イノベーションの研究基盤ネットワーク拠点」とした。本プランの考え方をもとに、ケアサイエンス分科会で作成する『提言』について、次の意見が出された。

- ・日本学術会議に参加をしている関連学問分野に、ケアサイエンスに関する内容を執筆してもらい、提言としていく。各分野から出された内容を横断的に結び付け、ケアサイエンスの学際的な側面を出す。提言では、短くてもインパクトのある方針を出していく。
- ・ケアサイエンスの定義を明確にし、具体例（研究例、実践例）を示していく。
- ・国内外のケアに関するデータベースを洗い出し、申請したマスタープランとの関係を確認する。
- ・学際的なケアサイエンスを、教育や人材育成にどのように組み込むかについての検討が必要である。併せて、ケアサイエンスの社会実装を試みることによって、その成果を評価する必要がある。

以上をもとに、今後は『提言』の目次（構造）と執筆者を決めつつ、提言の方針を議論することとなった。併せて、その準備段階として、ケアサイエンスの概念整理をし、共有する予定である。